貴金属回収事業に参入

秩父回収資源　電子機器から金・銀

【川越】秩父回収資源（埼玉県皆野町、小澤通利社長）は、廃棄後の電子機器から金、銀、パラジウムなど貴金属を回収する事業を始めた。新工場内に廃棄品を破砕、自動選別する設備を導入し、貴金属を効率的に回収。国内の製錬メーカーに供給する。モーターやトランスなど小型品から筐体（きょうたい）を含む大型コンピューターまで廃棄品を幅広く受け入れ、廃棄品の再資源化ビジネスで事業規模やコスト競争力に勝る中国勢に対抗していく。

秩父回収資源は鉄スクラップや特殊鋼、銅鉄金属の回収、再資源・アルミニウムなど非化が主力。近年は電力・通信ケーブルを破砕し、銅とポリエチレン、塩化ビニールなどに分別、再資源化する事業にも注力している。

破砕後の混合くずをセンサーで色識別し、エアを飛ばしてより分ける最新の選別装置

ここに来て、IoT（モノのインターネット）やクラウドサービスの普及で、データセンターで使われる大型コンピューターや大画面モニター、LANケーブルなどの廃棄品が急増。その中には「都市鉱山」と呼ばれるほど金、銀、パラジウムなど貴金属が使われているため、ケーブルから銅を回収する工場内に約600平方㍍の新工場棟を建設。廃棄した電子機器を1時間に約1㌧処理できる破砕・選別ラインを導入した。総投資額は約3億5000万円。

特に選別ラインは「破砕物の色をセンサーで自動的に識別し、エアを吹きかけ飛ばして、より分ける」（小澤通常務）という最新設備を採用。混合くずの中から貴金属を効率的に選別する。現在は処理コストの関係で多くの廃棄品が中国に輸出され、再資源化されており、「中国に負けないコスト競争力を実現することで、少しでも国内で処理できるようにしていく」（同）意向だ。

"社内新聞"を発行

アイ・メデックス　月1回、人に焦点

【千葉】アイ・メディックス（千葉市花見川区、市田誠社長）は、コロナ禍で従業員がリアルに接する機会が減示する。

業務連絡が中心の既存の社内報と異なり、人に焦点を当てた内容になる。市田社長からとともに、コミュニケーション能力と執筆力をアップさせる狙いもある。

アイ・メデックスは

ちょっと訪問

ック

商品開発力でニーズ対応

サンプラスチックは、ポリ塩化ビニール（PVC）のニーズに対応した商品開発力が強みだ。「る」（大江正孝社長）と健康経営にも注力する。会社を支える従業員の健新たな事業として「環境

先端技術で課題解決

産学公民連携基盤　横浜市、活動開始

【横浜】横浜市は、イノベーションを生み出す産学公民の連携基盤「横浜未来機構」の活動を始めた。57の正会員や、特別会員の横浜市などで組織する任意団体で、人材交流の促進と先端技術で地域の課題を解決する。会長は横浜国立大学の梅原出学長、副会長はAGCの井上滋邦常務執行役員が務める。

11月にキックオフイベントを実施予定で、第5世代通信（5G）やインフラを活用して街と連動した社会実証を進める。併せて異職種間のビジネス人材・学生との交流も手がける。

大企業が集積する横浜みなとみらい21地区とスタートアップが多い関内地区を結び新ビジネス・イノベーションの創出を加速。みなとみらい21地区を実証

起業家へチャレンジ精神伝授

小中学生向け教育プログラム

川崎市が12月から

起業家精神を次世代にもー。川崎市は次世代を担う小中学生に、チャレンジ精神などを養ってもらうための教育プログラム「かわさきジュニアベンチャースクール」を12月から実施する。起業の意義や進め方を、3カ月にまたがる講座で紹介。市内に立地する企業の関係者らによる特別講座も開く。参加の応募を8日から11月15日まで受け付ける。小中学生向けの起業家教育プログラムの実施は初めて。

同市内在住または市内の学校に通う小学5年生から中学生の生徒が対象。12月5日から約3カ月間にまたがって「かわさき新産業創造センターAIRBIC」（川崎市幸区）内またはオンラインで8回の講座を開き、起業のアイデアを練ってもらう。市内に事業所を構える富士通と日本電産の関係者が、自社の技術や研究活動を紹介する特別講座も開く。

参加無料で定員は先着30人。問い合わせは事務局のアントレプレナーシップ開発センター（075・468・8907）へ。（川崎）

私たちは　明日の